



ゼオンの海外拠点 －タイ・ゼオンアドバンスドポリミクス社編－



ラヨン工場



ゴムコンパウンド製造工程(練り)

ゼオンアドバンスドポリミクス社は、1995年4月にタイ王国のラヨン県に設立されたゴムコンパウンドの製造販売会社です。タイの首都であるバンコクにもセールスオフィスを構えています。日本ゼオンが製造している合成ゴムを原料として、これにカーボンや化学薬品を混ぜた原料コンパウンドを、自動車、オートバイ、スポーツ用品、プリンターロール等の製造会社に販売しています。現在はタイ国外への輸出版売も全体の40%を占めるようになり、東南アジアや遠くはメキシコ、ブラジルなど世界9か国に販売しております。

ラヨン工場では原料の受け入れから出荷までをバーコードで一貫管理し、製造工程ではビデオ映像管理も同時に実施し、製品のトレーサビリティを確保しています。タイの自動車産業の伸びとともに順調に成長し、昨年にはケミカルコンパウンド、カラーコンパウンドの製造にも着手しました。2019年にはさらに大型機を導入する計画で、生産能力は年間55,000トンとなる予定です。これからもゼオングループのゴムコンパウンドビジネスの重要な基地として、グローバルな生産・販売体制の一翼を担っております。

日本ゼオン株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-2 (新丸の内センタービル)
〒100-8246 電話03 (3216) 1772



ZEON
日本ゼオン株式会社
証券コード 4205

株主のみなさまへ

第94期 年度報告書

2018年4月1日 ▶ 2019年3月31日

高付加価値製品へのシフトと 成長市場への積極的な展開により 中期経営計画「SZ-20 Phase III」の 目標達成に邁進してまいります。



取締役会長 古河直純 取締役社長 田中公章

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第94期(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の報告書をお届けいたします。

株主のみなさまには引き続き、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Q 2019年3月期の連結業績を
どのように分析・評価していますか。

A 原料価格の変動の影響を主要因に営業利益は減益となりましたが、
売上高は過去最高を更新しました。

連結財務ハイライト

■売上高	3,375億円	↑
	前期比 1.4%増	
■経常利益	363億円	↓
	前期比 11.2%減	
■親会社株主に帰属する当期純利益	185億円	↑
	前期比 41.4%増	

2019年3月期の経営環境は、米国と中国の貿易摩擦が深刻化するなど、全般的に先行き不透明な状況で推移しました。こうした中、当社グループは業容の拡大ならびに収益力の強化に向け、ゼオングループの蓄積した強みを深化させつつ、高付加価値製品へのシフトや成長市場への積極的なビジネス展開を推進いたしました。

この結果、当期の売上高は、エラストマー素材が堅調に推移したことなどにより、前期比1%の増収を確保し2年連続で過去最高を更新しました。収益面については、国産ナフサ等の原料価格等の変動の影響を受け、営業利益および経常利益ともに減益となりました。また当期はシンガポール子会社の固定資産の減損86億円を特別損失として計上しましたが、特別損失が前期より減少したことなどから、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比41%の大幅増益となりました。

事業セグメントごとに概観しますと、エラストマー素材事業では、ゴムおよび化成品が増収となりました。特に海外販売が伸長した化成品は、前期比10%の増収を果たしました。一方、高機能材料事業は電池材料などの高機能ケミカルが増収となった反面、スマホ向けを中心とした光学フィルムなどの高機能部材が伸び悩む結果となりました。

Q エラストマー素材事業の成長戦略と
具体的な取り組みについて教えてください。

A S-SBR、アクリルゴム、非対称SISなどの高付加価値製品に
経営資源を積極投入し、市場でのプレゼンス拡大を追求しています。

中期経営計画「SZ-20 Phase III」の2年目であった2019年3月期、エラストマー素材事業では、高付加価値製品へのシフトを通じて、収益力の一層の強化に努めました。具体的には、営業開始3年目を迎えたZSエラストマー社において、自動車タイヤのウェットグリップ性、低燃費性、耐摩耗性を高めるS-SBRを、当社と住友化学、両社のポリマー重合技術を結集してさらなる高性能化を追求し、世界市場でリーディングポジションを目指しています。

市場拡大が続くアクリルゴムにおいては、タイに新会社Zeon Chemicals Asia Co., Ltd.を2018年10月に設立し、同製品として4番目となる新工場の建設に着手しました。今後は2020年春に完工予定のこのタイ新工場での増産を基盤に、アジアにおける製・販・技の強固なネットワークを活用して、市場の深耕に注力していく方針です。

主に紙おむつ用のフィルムに使用されている非対称SISは、今後の成長と用途の拡大が見込まれるゼオングループの独創性ある製品です。紙おむつは年率6%の伸長を続ける急拡大市場で、薄膜化や低臭気化に貢献する非対称SISに対する期待は年ごとに大きくなっています。こうした拡大する市場に対し、紙おむつ用としての採用の拡大に努めると同時に、粘着ラベルやフレキシオン向けなど新規用途への展開も図っていく計画です。

2020年のありたい姿

『化学の力で未来を今日にするZEON』

—わたしたちゼオンは、一人ひとりの成長を通じて、お客様の夢と快適な社会の実現に貢献し続けます—

2020年度連結売上高 5,000億円以上

Q 高機能材料事業が注力する市場および成長戦略を説明願います。

A COP、中小型向けOLEDなど、今後の成長が期待できる先端市場において、
新製品の投入と新規用途の開拓に取り組んでまいります。

高機能材料事業では、成長市場への対応を中心に、新製品の開発や用途の拡大に力を注いでいます。本年4月には、熱可塑性透明プラスチック(COP)を手掛けるゼオンオプトバイオラボ社を設立し、光学、医療、バイオ市場向けの試作対応を強化しました。成長の可能性を探るべく、引き続き国内外の大学、研究機関、ベンチャーと緊密な連携を保ち、積極的かつスピーディーな新製品・新サービスの提供を目指します。また、メディカルデバイスについては、光センサー型FFRのシェア拡大に取り組む一方、2018年に消化器系分野に投入した新型胆管ステントなどの高価値製品を積極展開してまいります。特に医療分野においてはゼオングループの蓄積された技術が多種多様に生かされると考えています。

スマホ市場の低迷が響くゼオノフィルムは、今後の成長が期待できる中小型向けOLED市場に対し、位相差フィルムなど新材の採用拡大を図ります。さらに、電気自動車などの市場の拡大で好調が続く電池材料は、車載電池の多様なニーズに合わせた製品展開を進めてまいります。また、カーボンナノチューブにおきましても、ゴムなど他の素材との複合材料としての用途開発に注力してまいります。



事業セグメント別戦略(エラストマー素材事業)

- ・ 成長市場へのグローバルな対応とコスト競争力強化によって、強みを発揮できる事業を更に深化させる。
- ・ 蓄積してきた市場からの信頼とお客様との関係を活かして、新たな可能性を探索し、成長に繋げる。

グローバルな事業展開で生産供給体制を確立し
自動車産業に次々と新しい製品をお届けしています。

特殊架橋タイプ Zetpol®

高い耐熱性と用途の拡大

Zetpol®(水素化ニトリルゴム)とは

Zetpol®は、耐油性ゴムとして最も広く使用されているニトリルゴムを特殊な方法で水素化することにより製造される、高度に飽和された主鎖を持つ特殊合成ゴムです。

Zetpol®はニトリルゴムの持つ優れた耐油性と加工性に加え、優れた耐熱性、耐薬品性、耐オゾン性を示します。

Zetpol®を使用することにより、各種ゴム部品の信頼性、耐久性を向上させることができます。



▶ ドライ品の生産能力を増強

Zetpol®は、高岡工場(富山県)、川崎工場(神奈川県)、Zeon Chemicals LP.テキサス工場(米国)の3拠点で製造されています。

特殊架橋タイプZetpol®は、ガスケットやオイルシール、燃料系ホースなど自動車の重要保安部品を中心に採用が拡大しており、今般、その生産拠点である川崎工場の乾燥能力を増強いたします。完工は本年9月を予定しております。

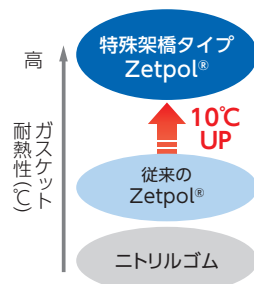


特殊架橋タイプ Zetpol®生産設備(川崎工場)

特殊架橋タイプとは

特殊架橋タイプのZetpol®は、当社のポリマー設計技術により新たな架橋点を導入した水素化ニトリルゴムです。

従来のZetpol®の持つ特性に加え、特に製品形状(O-ring)での優れた圧縮永久ひずみ性を示し、従来品より10℃以上のガスケット耐熱性改善を実現しております。



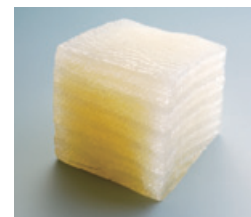
アクリルゴム

アジアでの生産体制を強化し、さらなる販売拡大を図る

アクリルゴムとは

アクリルゴムは、アルキルアクリレートを骨格主成分とする耐熱性、耐油(潤滑油)性、耐候性に優れた特徴を持つ特殊合成ゴムです。150~175℃レベルの温度雰囲気下で長期にわたる使用に耐えることができ、フッ素ゴムやシリコンゴムに次ぐ耐熱性能を示します。

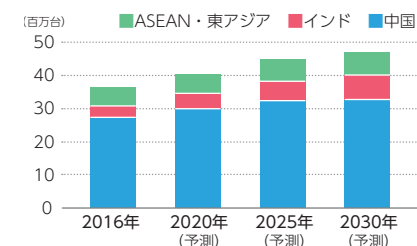
そのため、自動車および一般産業機械用ホース、チューブ、シールガスケットなど幅広い用途で使用されています。



需要が高いアジア

パワートレイン(エンジンで作られた回転力を駆動輪へと伝える役割を担う装置類)の電動化が進む一方、世界の内燃機関搭載車の伸びとターボ搭載車比率の高まりによって、アジア地域を中心に、アクリルゴムの需要増が見込まれます。

◎内燃機関搭載車エリア別販売構成予測

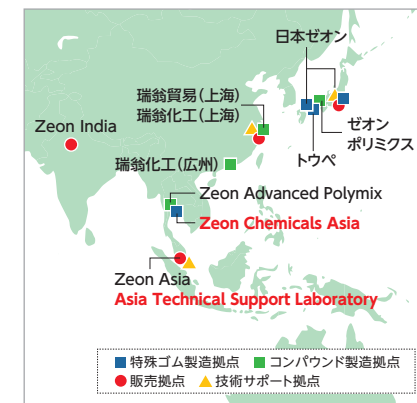


出典:
①ASEAN・東アジア、中国 エリア 富士経済「2018年版 HEV、EV 関連市場徹底分析調査」(HEV、PHEV、48V MHEV、内燃車 合計)
②インド エリアに関しては当社推定

▶ タイに第4工場を建設

タイに新たな製造・販売拠点を設立します。これは日本、アメリカに続く3拠点目、4つ目の製造工場です。2020年春の完工を目指しています。生産能力は年産5,000トンです。アジア地域での製・販・技のネットワークを強化し、さらなる販売拡大を目指します。

◎アジアに広がる特殊ゴムのネットワーク

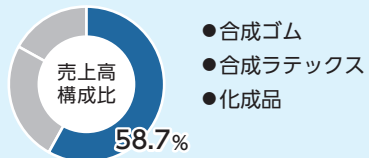


売上高

売上高の推移

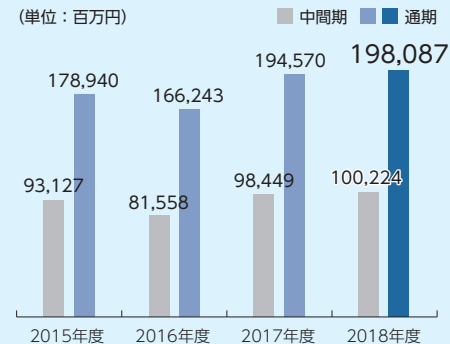
概要

会社基盤を支える事業
**エラストマー素材
事業部門**



1,980億87百万円

1.8%
(前期比)



合成ゴム

国内販売・輸出・海外子会社とも堅調に推移し、全体の売上高は前期を上回りましたが、原料価格変動の影響を受け、営業利益は前期を下回りました。

合成ラテックス

国内樹脂改質用ラテックスおよび中国向けの販売が低調であったことから、全体の売上高、営業利益ともに前期を下回りました。

化成品

国内販売・輸出・タイ子会社とも堅調に推移し、全体の売上高は前期を上回りましたが、原料価格変動の影響を受け、営業利益は前期を下回りました。

●当事業部門全体の売上高は1,980億87百万円(前期比1.8%増)、営業利益は176億91百万円(同20.2%減)となりました。



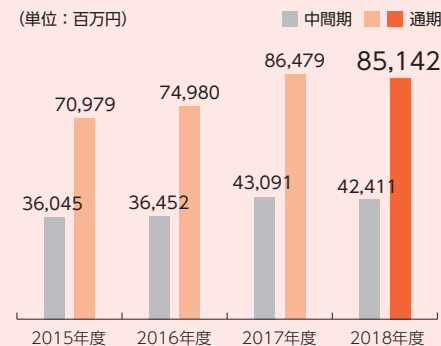
新規展開を中心とする事業

**高機能材料
事業部門**



851億42百万円

1.5%
(前期比)



高機能樹脂・部材

高機能樹脂関連では、光学・医療用途の販売が堅調に推移しました。高機能部材関連では、テレビ向け光学フィルム、モバイル向け光学フィルムとともに顧客の在庫調整の影響を受けました。この結果、高機能樹脂および部材全体の売上高、営業利益ともに前期を下回りました。

情報材料

情報材料関連では、電子材料の売上高は前期を下回りましたが、トナーおよび電池材料の販売が堅調に推移した結果、全体の売上高、営業利益ともに前期を上回りました。

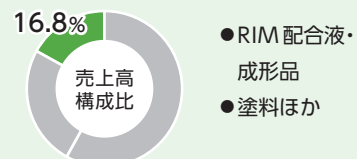
化学品

化学品関連では、需給バランスがタイトな市場環境の下で価格改定を進めた結果、全体の売上高、営業利益ともに前期を上回りました。

●当事業部門全体の売上高は851億42百万円(前期比1.5%減)、営業利益は161億15百万円(同3.7%減)となりました。

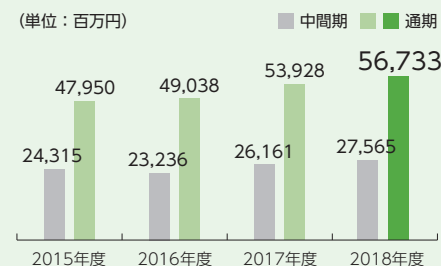


その他の事業部門



567億33百万円

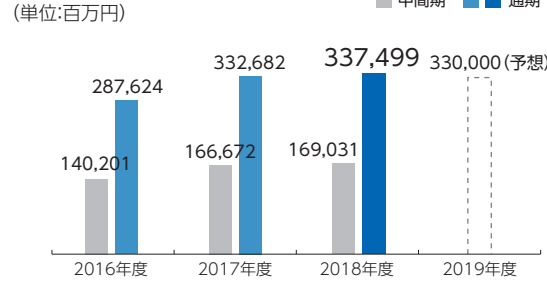
5.2%
(前期比)



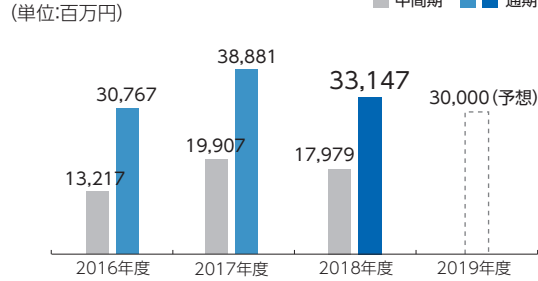
●子会社の商事部門等の売上高が前期を上回りました。この結果、全体の売上高は567億33百万円(前期比5.2%増)、営業利益は27億86百万円(同13.1%減)となりました。



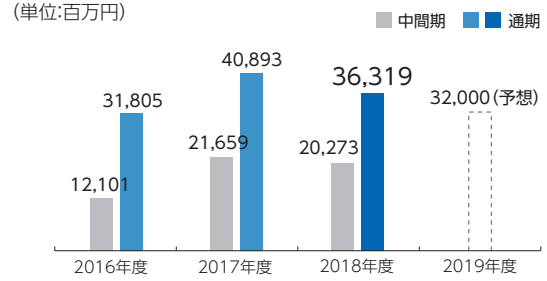
売上高



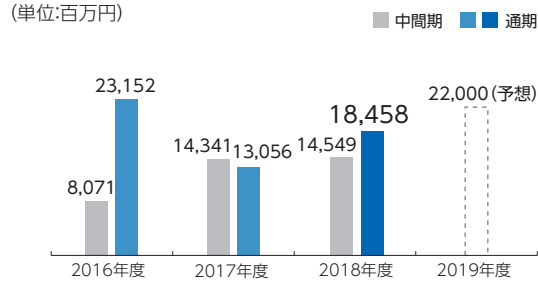
営業利益



経常利益



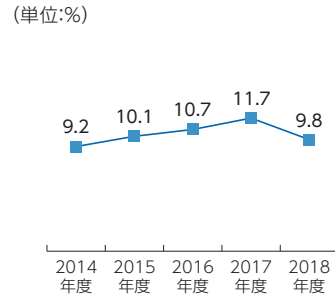
親会社株主に帰属する当期純利益



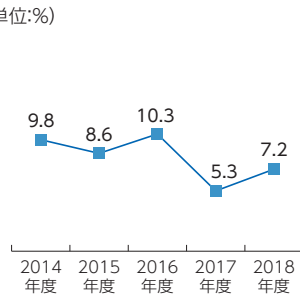
POINT

売上高は2年連続で過去最高を更新しましたが、原料価格変動の影響などにより、営業利益は減少しました。
減損損失額が前期より減少したことなどにより、親会社株主に帰属する当期純利益は増加しました。

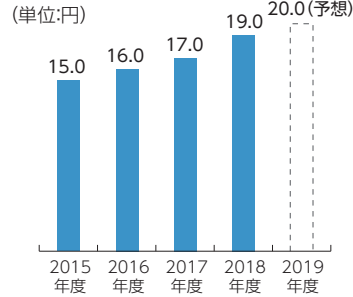
営業利益率*



ROE (自己資本当期純利益率)*

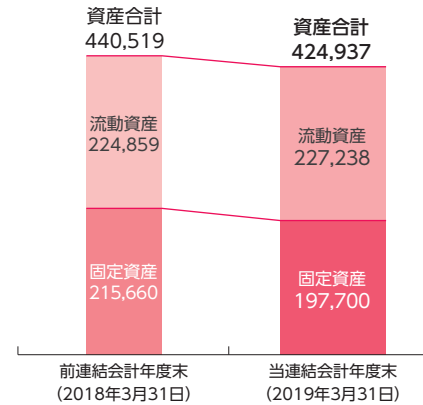


年間配当金



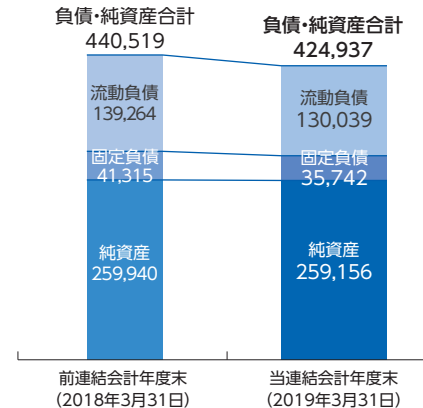
*営業利益率およびROE(自己資本当期純利益率)につきましては、各年度の通期実績値の推移をお示しております。

連結貸借対照表 (単位:百万円)



POINT

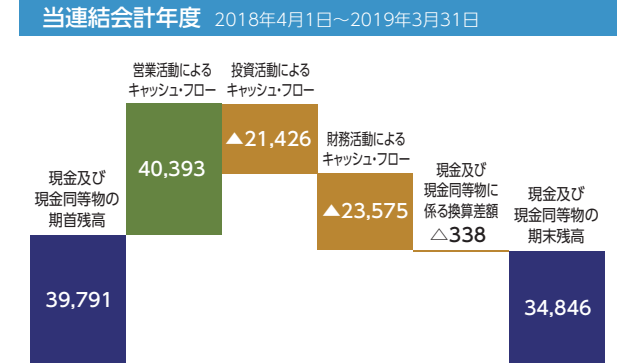
棚卸資産などが増加しましたが、有形固定資産、投資有価証券などが減少したことにより、資産合計は前年度末に比べて減少しました。



POINT

社債を償還したことに加え、買掛金、繰延税金負債なども減少したことにより、負債合計は前年度末に比べて減少しました。

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金受領株主確定日	3月31日および中間配当を行うときは9月30日
基準日	毎年3月31日 (その他臨時に必要なときは、あらかじめ公告します。)
公告方法	電子公告 http://www.zeon.co.jp/ (ただし電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載します。)
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
同連絡先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (〒168-8507) 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)
特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
同連絡先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (〒168-0063) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人であるみずほ信託銀行株式会社にお申し出ください。

■ 会社の概要 (2019年3月31日現在)

商号 日本ゼオン株式会社
(ZEON CORPORATION)
設立 1950年4月12日
資本金 242億1千1百万円
本社 〒100-8246
東京都千代田区丸の内1-6-2
新丸の内センタービル
電話 03(3216)1772
従業員 3,405名(連結)

■ 役員 (2019年6月27日現在)

取締役会長 古河 直純	執行役員 小瀬 智之
取締役社長 田中 公章	執行役員 豊嶋 哲也
取締役 平川 宏之(☆)	執行役員 横田 真
取締役 西嶋 徹(☆)	執行役員 渡辺 誠
取締役 林 佐知夫(☆)	執行役員 川中 孝文
取締役 藤澤 浩(*)	執行役員 江口 勉
取締役 松浦 一慶(*)	執行役員 曾根 芳之
取締役 伊藤 晴夫	執行役員 渡辺 えりさ
取締役 北畑 隆生	執行役員 富永 哲
取締役 南雲 忠信	
常勤監査役 平川 慎一	
常勤監査役 古谷 岳夫	
監査役 藤田 譲	
監査役 郡 昭夫	
監査役 西島 信竹	

(☆)の取締役は常務執行役員を兼務しております。
(*)の取締役は執行役員を兼務しております。

■ 株式の状況 (2019年3月31日現在)

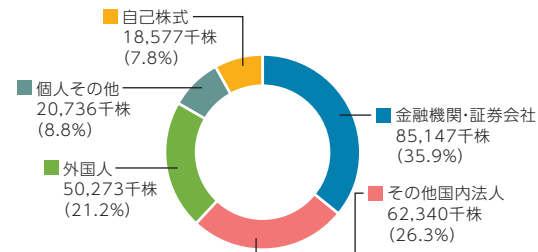
発行可能株式総数 800,000,000株
発行済株式の総数 237,075,556株
株主数 10,082名(前年度末比771名増)

大株主

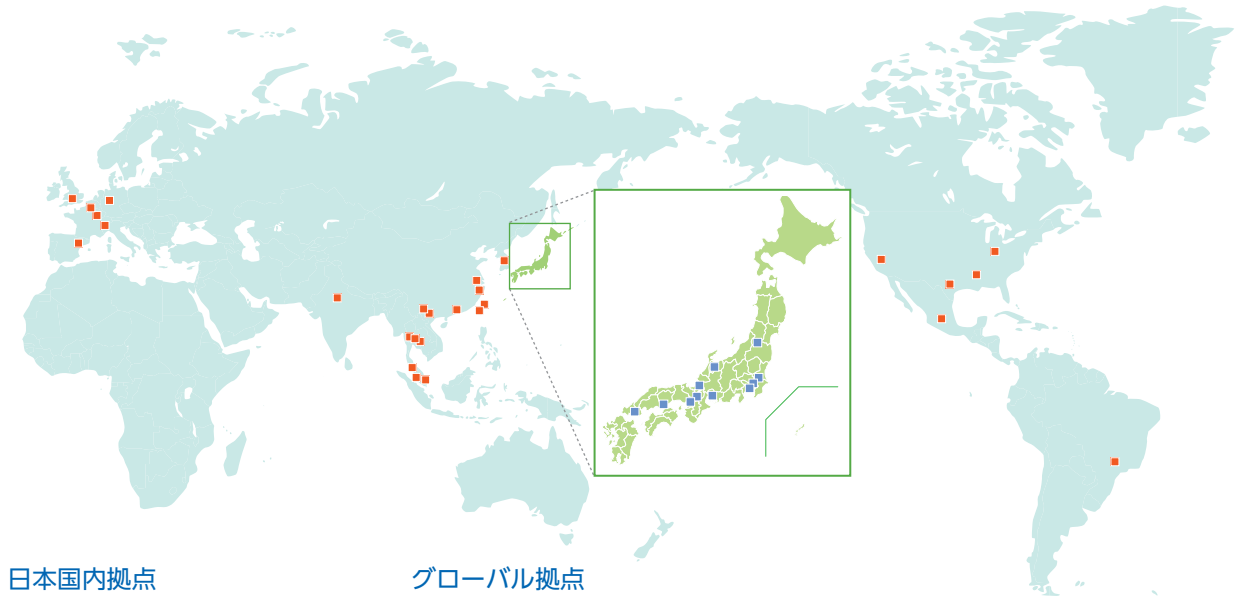
株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
横浜ゴム株式会社	22,682	10.38
株式会社みずほ銀行	9,600	4.39
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	9,481	4.34
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	8,745	4.00
全国共済農業協同組合連合会	8,200	3.75
朝日生命保険相互会社	7,679	3.51
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	6,674	3.05
旭化成株式会社	6,438	2.95
農林中央金庫	4,000	1.83
日本ゼオン取引先持株会	3,648	1.67

(注) 1.持株数は千株未満を切り捨てて表示しております。
2.当社は自己株式18,577千株を保有しておりますが、上記の表には記載していません。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別分布状況



■ ゼオングループの主要拠点



日本国内拠点

- 日本ゼオン株式会社
 - 本社
 - 総合開発センター
 - 高岡工場
 - 川崎工場
 - 徳山工場
 - 水島工場
 - 大阪事務所
 - 名古屋事務所
- 株式会社オプテス
- ゼオンエフアンドビー株式会社
- ゼオンオプトバイオラボ株式会社
- ゼオン化成株式会社
- ゼオンケミカルズ米沢株式会社
- ゼオンナノテクノロジー株式会社
- ゼオンノース株式会社
- ゼオンポリミクス株式会社
- ゼオンメディカル株式会社
- ゼオン山口株式会社
- 東京材料株式会社
- 株式会社トウベ
- RIMTEC株式会社
- 株式会社TFC
- ZSエラストマー株式会社
- 岡山プラタジエン株式会社
- ジスイنفォテクノ株式会社

グローバル拠点

アジア・オセアニア

- 瑞翁(上海)管理有限公司
- 瑞翁貿易(上海)有限公司
- 瑞翁化工(上海)有限公司
- 瑞竹化工(上海)有限公司
- 瑞翁化工(広州)有限公司
- 瑞翁化成塑料(常熟)有限公司
- 泉瑞股分有限公司
- 台湾瑞翁股份有限公司
- Zeon Korea Co., Ltd.
- 濟新株式会社
- Zeon Chemicals Singapore Pte. Ltd
- Zeon Asia Pte. Ltd
 - Asia Technical Support Laboratory
- Zeon Asia Malaysia Sdn. Bhd.
- Zeon Chemicals (Thailand) Co., Ltd.
- Zeon Advanced Polymix Co., Ltd.
- Zeon Chemicals Asia Co., Ltd.
- Zeon Manufacturing Vietnam Co., Ltd.
- Zeon Research Vietnam Co., Ltd.
- Zeon India Private Limited

欧州

- Zeon Europe GmbH
 - Zeon Europe GmbH - Branch in France
 - Zeon Europe GmbH - Branch in Spain
 - Zeon Europe GmbH - Branch in Italy
 - Zeon Europe GmbH - Branch in U.K.
- Telene S.A.S.

北米・中南米

- Zeon Chemicals L.P.
 - Zeon Chemicals L.P. R&D Center
 - Zeon Chemicals L.P. Kentucky Plant
 - Zeon Chemicals L.P. Mississippi Plant
 - Zeon Chemicals L.P. Texas Plant
- Zeon Specialty Materials Inc.
- Zeon Brasil Ltda.
- Zeon Kasei Mexico S.A. de C.V.